



大学院統合新領域学府にライブラリーサイエンス専攻を設置

～ユーザーの視点に立った情報の管理提供における、新たな教育研究を展開。
大学院統合新領域学府ユーザー感性学専攻に博士後期課程も設置～

概 要

九州大学では、平成23年4月に、大学院統合新領域学府に**ユーザー感性学専攻**（博士後期課程、入学定員4名）及び**ライブラリーサイエンス専攻**（修士課程、入学定員10名）を新たに開設します。

「ライブラリーサイエンス専攻」は、統合新領域学府の第3番目の専攻として設置されますが、同専攻では、ICT環境の真ただ中に置かれる現代情報社会の急速な進展に対応するため、ユーザーの視点に立った情報の管理と提供を確保し、同時に知の創造と継承を支える新たな「場」（これを「ライブラリー」と呼びます）に求められる高度な専門人材の養成を目指します。

新しい発想にもとづくこのような大学院は、我が国で初めて設置されるものであり、関係学界、業界から熱望されていたものです。

■内 容

大学院統合新領域学府は、現代の社会や科学が対峙する重要な課題を専門的な知の統合を通じて解明し、それらの課題に立ち向かう高度かつ専門的な人材の育成を図ると共に、その知的成果を社会に還元することを目的に、平成21年4月に開設され、現在、「ユーザー感性学専攻（修士課程）」及び「オートモーティブサイエンス専攻（修士課程、博士後期課程）」といった世界でも例を見ない独自性の高い2専攻3課程が置かれており、「感性」そして「自動車」といった各学問分野における教育研究が展開されています。

この度、本学府の新たな専攻及び課程として、文部科学省大学設置審議会の設置審査および認可を受け、平成23年4月に、**ユーザー感性学専攻（博士後期課程）**及び**ライブラリーサイエンス専攻（修士課程）**を新たに開設いたします。

なお、各専攻の概要・問い合わせ先等については、別紙を参照ください。

【お問い合わせ】

大学院統合新領域学府長・教授 塩次喜代明
TEL: 092-802-2555
E-mail: shiotugu@en.kyushu-u.ac.jp

「ユーザー感性学専攻（博士後期課程）」について
ユーザー感性学専攻長・教授 森田昌嗣
（芸術工学研究院・教授）
TEL: 092-553-4533
E-mail: morita@design.kyushu-u.ac.jp

「ライブラリーサイエンス専攻（修士課程）」について
人文科学研究院准教授 岡崎敦
TEL: 092-642-2406
E-mail: okazaki@lit.kyushu-u.ac.jp

九州大学は
2011年に
100周年を
迎えます



大学院統合新領域学府「ユーザー感性学専攻（博士後期課程）」設置について

■概要

九州大学では、平成23年4月、大学院統合新領域学府ユーザー感性学専攻に「博士後期課程（入学定員4名）」を新たに開設します。

ユーザー感性学専攻は、知の活用主体であるユーザーの観点から、また感性を基盤とする人間理解の上に立って感性価値の創造を推進する専門人材の養成を目的とした、我が国初の大学院です。平成21年4月に開設した修士課程は、「感性科学コース」「感性コミュニケーションコース」「感性価値クリエーションコース」の3コースで構成されており、それぞれが特徴的な目的を持って教育研究を行っています。今後、本学問分野における更なる知の統合と、より高度な教育と研究を実践するために、平成23年4月に博士後期課程を開設します。

■内容

本専攻博士後期課程では、「ユーザー感性学」に関するより高度で統合的な教育研究を行うために、修士課程に置かれる3つのコースの専門性を「特化」させると共に、それぞれのコースを積極的に「統合」していきます。即ち、博士後期課程においては、修士課程の「コース」の区切りは設けずに、「感性科学」「感性コミュニケーション」「感性価値クリエーション」という3つの領域における専門性の特化と統合を繰り返すことで、ユーザー感性学の確立を図っていきます。

このため、博士後期課程においては、一つの研究テーマに対して複数の領域から教育研究の指導を行います。具体的な研究テーマを例にあげると、例えば「暗黙知とブランドに焦点をあてた感性マーケティングの方法論」などが考えられます。この研究においては、学生が「感性マーケティング」という研究課題に取り組む際に、感性の生理心理的な評価を科学的に行う「感性科学」、暗黙知など感性特有の情報伝達の方法を探る「感性コミュニケーション」、ブランドなど新しい価値基準や価値の創造を行う「感性価値クリエーション」など、複数の領域からアプローチを図り、様々な視点から研究を展開していくことで、3つの領域における専門性の特化と統合を繰り返し、より高度な研究へと深化させていくことができます。

博士後期課程の入学定員は4名で、修了者には、その研究内容によって学位「博士（感性学）」「博士（芸術工学）」「博士（学術）」のいずれかが授与されます。

■効果

本専攻博士後期課程の特徴である3領域の「統合」によって博士号を取得した方は、「ユーザー感性学」に関して統合的な幅広い知識、研究及び実践の両方の能力を兼ね備えた新しいタイプの高度な専門性を有する研究型人才となります。

特に、本専攻博士後期課程では、企業の製品開発やサービスと密接に関連する感性をテーマとして扱っていることから、博士後期課程修了者は、企業における実践研究型の職種として、感性評価の研究開発者、感性マーケティング調査研究者、感性製品の開発研究者、感性情報サービスの企画研究者など多様な職種が考えられます。

また、ユーザー感性学という新たな学問分野を開拓し、新たな価値を創造できる実践的な研究者など、本学問分野を更に発展させていく次世代を担う研究者を養成していくことも期待されています。

■今後の展開

文部科学省大学設置審議会の設置審査および認可を受け、平成23年4月に設置します。
学生募集に関わる今後のスケジュールは次のとおりです。

願書受付期間 平成23年1月12日（水）～1月20日（木）

入学試験 平成23年2月 5日（土）

詳しくは、統合新領域学府ホームページ (<http://www.ifs.kyushu-u.ac.jp/>) をご覧ください。

【お問い合わせ】

ユーザー感性学専攻長・教授 森田昌嗣
(芸術工学研究院・教授)

TEL: 092-553-4533

E-mail: morita@design.kyushu-u.ac.jp

ユーザー感性学専攻事務室

TEL : 092-642-7355

大学院統合新領域学府「ライブラリーサイエンス専攻（修士課程）」設置について

■概 要

九州大学では、平成23年4月、大学院「統合新領域学府」の第三の専攻として「ライブラリーサイエンス専攻」（修士課程・入学定員10名）を開設します。

「ライブラリーサイエンス専攻」では、ICT環境の真ただ中におかれる現代情報社会の急速な進展に対応するため、ユーザーの視点に立った情報の管理と提供を確保し、同時に知の創造と継承を支えるあらたな「場」（これを「ライブラリー」と呼びます）に求められる高度な専門人材の養成を目指します。

新しい発想にもとづくこのような大学院は、我が国で初めて設置されるものであり、関係学界、業界から熱望されていたものです。

■背 景

20世紀後半におけるICT環境の急速な発展に伴い、知識や情報をめぐって社会は大きく変容しています。人々はインターネットをはじめとする多様なメディアがもたらす情報の大海に置かれ、情報化社会を享受しています。しかし、その反面では、従来の法制度や技術ではもはや充分に対応できない新規で重要な諸問題が次々に生起しています。

今日、私たちは情報の海から真に必要な情報を得ることに困難を感じるものが少なくありません。また、新しい情報媒体上では、その来歴や真正性、正確さ、さらには著作権の取り扱いが不分明な情報も氾濫しています。他方、年金資料や外交文書の不適切な管理、食品偽装、裁判資料の改竄などが大きな社会問題となる中、組織運営の基盤である文書記録管理の重要性が改めて認識され、平成21年には公文書管理法が制定されました。同年、著作権法が大幅に改正されたことも、知や情報に関する状況が、近年根本的な変容を遂げている現状を示しています。

このような状況において、緊急の課題として浮かび上がっているのが、知や情報の適切な管理とアクセスの保証です。創造性豊かな活動を展開するためには、知や情報を適切に入手する必要がありますが、その基盤となるのが信頼できる流通、管理、そして活用のシステムです。また、公行政、民間企業を問わず、組織の有効な運営戦略のためには、ステークホルダーや市民に対するコンプライアンス、情報公開とこれを可能とする適切な文書記録管理が不可欠です。

本専攻では、問題の複合的な性格に対応して、人文科学、社会科学、学習科学、情報学などから学際的にアプローチし、実践的な課題に現場で応えることができる高度な専門人材を養成します。

■内 容

本専攻は、高度な専門職を養成する大学院専攻です（修士課程・入学定員10名）。修了者には学位「修士（ライブラリーサイエンス）」が授与されます。

文字情報管理の面で大きな研究蓄積を有する2つの学問領域、「図書館情報学」と「アーカイブズ学（文書記録管理学）」を基盤として、法学、学習科学、情報学等の知見を交えつつ、ユーザーの視点にたった情報の管理と提供を可能とする、新たな知の創造と継承の「場」（＝「ライブラリー」）を教育研究の対象とします。知と情報を研究する大学院はすでに多数存在しますが、本専攻のように、公共性を重視して情報の管理と提供の「場」を科学する試みを展開すること、また文献著作と文書記録の両者を統合して取り扱うことは、我が国では初めてのことです。

本専攻が対象とする情報はあらゆる領域に関係することから、入学者も、多様な専門と背景を持つ人材が予想されます。このため、多様な教育ニーズに対応できる履修モデルを可能とするカリキュラムを組むと共に、指導教員は、学生一人ひとりの適性に応じて、きめ細かい履修指導を行います。教育方法にも工夫をこらし、専門分野を異にする複数の教員と学生が、共通のテーマ共通のテーマに協力して取り組むチームランニング（PTL）やインターンシップ等を用いながら、実践的な知の習得を図ります。

■効 果

こうして本専攻からは、高度な専門知識と実践志向性にあふれた人材が社会に送り出されます。国、地方公共団体、民間企業におけるアーキビスト、レコードマネージャー、システム管理を担う情報専門職、図書館等におけるサブジェクトライブラリアンはもちろん、知や情報の管理について専門的な知識を有する管理職の存在は、これからますます必要とされるでしょう。

このような教育研究活動は、我が国においても、画期的な意味を持つと考えられます。時代の要請に対応する新しい発想に基づく学際大学院として、図書館情報学やアーカイブズ学（文書記録管理学）の刷新にも寄与する組織として発展することが、関係学界、機関から強く期待されています。

また、本専攻は、地域においても重要な貢献を果たすことが予想されます。最近では、単に知や情報の蓄積・提供だけではなく、地域の文化的中心機能が期待されている図書館や、その重要性の認識がますます高まる文書記録管理組織（文書館、記録資料館）等に対して、人材の供給や研究開発支援などを行うことを通して、関係団体・組織の地域拠点として機能、発展することが期待されます。

■今後の展開

文部科学省大学設置審議会の設置審査および認可を受け、平成23年4月に設置します。
学生募集に関わる今後のスケジュールは次のとおりです。

願 書 受 付 期 間 平成22年12月15日（水）～12月24日（金）

入 学 試 験 平成23年 1月22日（土）

詳しくは、統合新領域学府ホームページ (<http://www.ifs.kyushu-u.ac.jp/>) をご覧ください。

【お問い合わせ】

人文科学研究院准教授 岡崎敦

TEL: 092-642-2406

E-mail: okazaki@lit.kyushu-u.ac.jp

【入学試験に関すること】

ユーザー感性学専攻事務室

TEL: 092-642-7170

【上記以外に関すること】

附属図書館 図書館企画課企画係

TEL: 092-642-4264